

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【Ⅱ】
2 実施対象者	北九州市立八見中学校1・2学年 6クラス 110名 教職員18名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習の時間 )
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックについて正しい知識を得て、それを契機に多様な文化と親しみ、相手の立場になって考えることができる。 おもてなしの心を学ぶ ～ マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 ～ ・おもてなしの心を国際感覚豊かな講師から話を聞き、多様な文化に親しみ、適切なふるまい方を知る。 ・講話や体験を通して、コミュニケーション力を高め、多様な文化に積極的にかかわろうとする心構えを育てる。
5 取組内容	1・2年生全員と教職員が筑波大学客員教授江上いずみ講師からワークショップをまじえた講演をきく。 1オリ・パラ2020における外国の方々への適切な対応 2おもてなしの意味 見返りを求めない対応 3好感度を求めるおもてなしの心 第一印象を高めるためには 表情、態度、身だしなみ、言葉づかい等 特に言葉づかいについては、言葉づかいのルール的重要性を再認識した。 ワークショップをまじえた講話 ○相手を傷つけない言葉かけ ○お辞儀の仕方（分離礼） ○握手の仕方 外国人を迎えるときの挨拶の仕方 ○ノックの仕方 ○物の渡し方
6 主な成果	オリンピック・パラリンピックについて正しい知識を得て、それを契機に多様な文化と親しみ、相手の立場になって考えることができた。 「相手に喜んでもらうためにどうすればよいか」自己中心的な見方にとられる中学生にとって他者の視点から考える契機となった。好感度を求めるためのおもてなしの心で、アイコンタクトの重要性、分離礼、適切な言葉づかいは、生徒が改めて気づかされたことで、その

後の学校生活の中で、留意して言動する生徒の姿が見られた。

【生徒の振り返り】

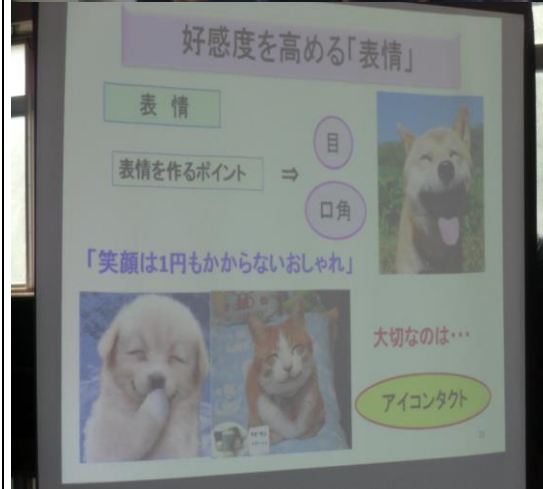
○おもてなしは対応とは違い、相手のことを考え、+αの行動だということです。それには、相手に対する態度や表情を工夫することが大切でした。

○「おもてなし」は心を言葉と行動で表すものだと知ることができました。自分にできる範囲のことを精一杯することで相手と分かち合えることもあるということが、とても印象に残りました。

○おもてなしをする相手によって、内容を変えたり動作が違えたりすることに驚きました。してのいい事としてはいけない事をしっかり理解し、相手に最高のおもてなしを届けたいなと思いました。



○第一印象を大切にしたい。悪い印象を与えた時には、それをくつがえすのに2倍～3倍の時間がかかるので気を付けるようにしたいです。



○アイコンタクトを大切にしていると、相手の気持ちが数秒でわかることに驚きました。敬語を使うことを大切にしている、使い方を間違えたとおもてなしとは全く違う行動になることも学びました。



○「了解しました」「ご苦労様」「すみません」の言葉は敬語が使われているので礼儀がよいと思っていたが、本当はちがっていた。

		<p>○「自分の一番が誰かの一番とは限らない」私がどれだけ自分のことだけを考えていたのかわかりました。中1という早い段階で気付いてよかったです。</p>
		<p>○挨拶の時に分離礼を心がける。 ○今まで以上に「先言後礼」を確実にしていきたい。 ○今後の試験や就活の時の面接に活かしていきたい。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○学校生活における学習規律やマナー教育を推進している。 ○事前にオリ・パラ教育について保健体育の授業で学習した。 ○オリ・パラ教育推進校の実践事例を掲示して生徒の興味・関心を高めた。</p>	
<p>8主な課題等</p>	<p>○年間計画に位置付け、計画的に実践する。 ○様々な人と交流する機会を教育課程の中に位置付け、おもてなしの心をはじめ、体験を通して多様性を育む。</p>	
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 ・パラリンピック選手を招聘して、創意工夫を凝らして限界に挑む姿や障害を克服した心情・態度を知り、自分自身を振り返る機会とする。 ・多様性を認め、一人一人が個性や能力を発揮し、活躍する機会が誰でもあることを鑑み、自分のために、他者のために今すべきことを考える機会とする。</p>	